

# 初級筆記試験問題(細)

No. \_\_\_\_\_

A-1 剣道の足さばきを4つ示し、最も多く用いる足さばきについて要点を説明せよ。

A-2 上下素振りの要領について説明せよ。

A-3 基本の正面打ち(遠端から1歩攻め入って、踏み込んで正面を打つ)の指導上の要点を述べよ。

B-1 "木刀基本"の内「基本1」の元立ちの動作について説明せよ。

B-2 "日本剣道形"の内「1本目の仕太刀」の動作について説明せよ。

B-3 "日本剣道形"の内「3本目の打ち太刀」の動作(手内・足さばき・刃の向きなど)について説明せよ。

C-1 有効打突の備えるべき6つの条件について述べよ。

C-2 副着の位置取り及び移動の要領について述べよ。

C-3 試合者の片足の足が完全に区画線の外に出た場合、主着は何もしない。副着とあるある足の対処の方法について述べよ。

D-1 First aid (看附件)

~~D-2 First aid (No.2)~~

# 中級筆記試験問題(劍)

No. \_\_\_\_\_

A-1 "氣・劍・体一致"について説明せよ。

A-2 "面抜き桐"の打ち方について説明せよ。

A-3 "打ち込め稽古"の要領について説明せよ。

B-1 "木刀基本"の内「基本4」のかかり手の動作について説明せよ。

B-2 "日本剣道形"の内「4本目の打太刀」の動作(予の内足は左向き及び向きなど)について説明せよ。

B-3 "日本剣道形"の内「5本目の仕太刀」の動作について説明せよ。

C-1 有効打突の備え手つき6つの条件と5つの要素について述べよ。

C-2 区画線の近くで片方の選手が相手の咽喉部を数回強く押し込んだため、相手選手は試合場の外に出た。主審であるあなたに対処すべき方法について述べよ。

C-3 片方の選手が面を、相手方が甲手をほぼ同時に打った。副審の一人は面の方を、他の副審は甲手の方を有効の積を上げた。あなたは面も甲手も無効(不十分)と判断した。主審のあなたに対処すべき方法について述べよ。

D-1 First aid. (看附件)

~~D-2 First aid (No. 2)~~

# 上級筆記試験問題(例)

No. \_\_\_\_\_

A-1 懸待一致、について説明せよ。

A-2 懸かり稽古の元立ちの要領について述べよ。

A-3 返し技(面返し脚)の要領について述べよ。

B-1 “日本剣道形”の内の「白奉目の仕太刀」の動作(手の内・足上げ・刃の向きなど)について説明せよ。

B-2 “日本剣道形”の内の「黒奉目の打太刀」の動作(手の内・足上げ・刃の向きなど)について説明せよ。

B-3 初級者(一級×二級)の“日本剣道形”を審査する際の着眼点について述べよ。

C-1 両方の試合者がほぼ同時に面を打った。主審であるあるは白の側に、2人の副審は赤の側に顔を上げた。主審であるあるの対処すべき方法について述べよ。

C-2 両方の試合者がほぼ同時に面を打った。主審であるあるは赤の側に、1人の副審は白の側に顔を上げたが、他の1人の副審は何もしなかった。主審であるあるの対処すべき方法について述べよ。

C-3 試合の審判員の心得について3項目あげて述べよ。

D-1 First aid (看附件)

~~D-2 First aid (vol.2)~~

## I. 筆記試験

- 受験者は、設問A群から2問、B群から1問、C群から1問、D群から1問、合計5問を選んで解答しなければならない。
- 採点者は各問20点満点で採点し、合計点数( /100)を示す。

## II. 実技試験

- ①初級受験者は、“木刀基本”の「基本1」から「基本9」まで、木刀を用いて演習する。
  - ・かかり手ともとびだち両方とも演習する。
- ②中級受験者は“木刀基本”の「基本1」から「基本9」までを防具を着け竹刀を用いて演習する。
  - ・すり足で行ない、実際に相手を打つ。
- ③上級受験者は“木刀基本”の内「基本1」から「基本9」までを防具を着け竹刀を用いて演習する。
  - ・踏かけ込め足で実際に相手を打つ。

## III. 口頭指導力試験

- ①初級受験者は、“日本剣道形”1本目・2本目の演習者に対して口頭で指導する。(約2分間)
- ②中級受験者は、“日本剣道形”3本目・4本目の演習者に対して口頭で指導する。(約3分間)
- ③上級受験者は、“日本剣道形”5本目・6本目・7本目の演習者に対して口頭で指導する。(約4分間)

採点者は、II、IIIについて5点満点で採点する。

- ・ほぼ完璧である → 秀 — 5
- ・一部に不十分がある → 優 — 4
- ・不十分点かいくつか見られる → 良 — 3
- ・不十分点が多く見られる → 可 — 2
- ・失敗をくり返している → 不可 — 1

# 採点と評価

No. \_\_\_\_\_

## I 筆記試験

- ・ 85点以上 — 5
- ・ 75~84点 — 4
- ・ 60~74点 — 3
- ・ 40~59点 — 2
- ・ 39点以下 — 1

## II 演技試験 (初基準)

- ・ 発声・間合・姿勢・タイミング・状況などが完全に正しい — 秀 — 5
- ・ 上記の要素の一部に不完全な点が見られる — 優 — 4
- ・ 上記の要素のいくつかに不十分さが見られる — 良 — 3
- ・ 不十分さが見える — 可 — 2
- ・ 失敗をくり返している — 不可 — 1

## III 口頭指導力試験 (標準的)

- ・ 多くの点に目をつけて適切に指導している — 秀 — 5
- ・ 指導すべき点を見つけているが表現が弱い — 優 — 4
- ・ 指導が片寄ったり不足したりしている — 良 — 3
- ・ 指導すべき点が少ない表現もよくない — 可 — 2
- ・ 指導すべき内容が間違っている — 不可 — 1

## IV 最級評価

	採点者が1人の場合	採点者が2人の場合	採点者が3人の場合
合	秀 14/15 ~ 15/15	28/30 ~ 30/30	42/45 ~ 45/45
	優 12/15 ~ 13/15	25/30 ~ 27/30	37/45 ~ 41/45
	良 10/15 ~ 11/15	21/30 ~ 24/30	27/45 ~ 36/45
不	可 8/15 ~ 9/15	15/30 ~ 20/30	20/45 ~ 26/45
可	不可 3/15 ~ 7/15	6/30 ~ 14/30	9/45 ~ 19/45

11月 2015

No. \_\_\_\_\_

21 SAT

16:30 ~ Coach. Samner  
18:00 ~ Writing EX  
18:50 ~ Total 稽古  
19:30 完

22 SUN

8:30 ~ 木刀基法) 講習  
創直形  
10:30 ~ 立合稽古 (3ヶ所-70)  
15:20 ~ 実技 (木刀基法) EX  
創直形 口頭試験  
17:00 ~ 合同稽古